

避難と未来の選択

手塚 智子 (てづか ともこ／鳥取市在住)

この号が届く頃、酷暑は過ぎ、台風の進路に気をもんでいるかもしれませんね。鳥取市内には千代川やその支流が流れています。大正期の記録では、6、7年ごとに大水害が流域を襲い、甚大な被害をもたらしたそうです。鳥取という地名は、湿地帯だった鳥取平野で鳥などを狩猟していた人々に由来するのだそう。治水は進みましたが、地形が劇的に変わったわけではなく、市街地～鳥取城址周辺に水害時の避難所はほとんどありません。いざとなったらうちは垂直避難だねと話しています。

そんなわが家の最近のブームは、毎週日曜日に放映中の「未来少年コナン」。1970年代に制作されたSFアニメです。物語は2008年、“超磁力兵器”を用いた最終戦争が地殻の大変動を引き起こし、地震や津波が襲い大陸と文明のほとんどが水没するシーンから始まります。それから20年、生き残った人々はわずかな陸地で暮らしています。コナンは残され島で生まれ育った超パワフル自然児。ハイハーバー島では、住民が力を合わせて農業や畜産などを営むなか諍いも起きます。科学都市インダストリアでは、巨大エネルギー技術の利用拠点だった三角塔を中心に、圧政が敷かれています。大都市のゴミ捨て場だったプラスチック島でプラスチックを回収し、エネルギー、食べ物を得ています。この巨大エネルギー技術を手に入れて世界征服を企む人物との攻防や、破滅的な結果を生んだ同技術の開発者、権力や不条理なシステムにあらがい結束し、望む暮らしを自ら創ろうとする若者の姿も描かれていきます。

この話、ちょっと強引に置き換えると、巨大技術は原発、社会の姿は化石エネルギー依存文明にみえませんか？いずれも便益をもたらす

一方で、人の手では收拾がつかない結果を、福島第一原発事故、気候危機という形で生んでいます。私たちは、インダストリアかハイハーバーかの二項対立を超えられるでしょうか。

いま、気候危機や民主主義の危機に対し、世界中の人々が声をあげ、対話を始めています。フランスでは、くじ引きで選ばれた市民150名による「気候市民会議」が、憲法改正を含む提案をまとめたそうです。オーストリアでは、コロナ禍の中、6月末に8日間で38万筆の署名を集め（必要数10万筆）、気候保全権やCO₂バジェットを法律に位置づけることなどを国民請願し、議会で検討が始まるようです。同国では1978年、国民投票の結果、完成していた原発の稼働が僅差で否認され、翌年、脱原子力法が制定されています。

いま鳥取県西部でも住民投票の実現をめざしています。島根原発から30km圏の境港市、米子市は、3.11後に避難計画策定が義務づけられました。新設の島根原発3号機は、稼働すると日本で最後まで動く原発になるかも…。

住民投票は、賛成か反対の二項対立というより、どんな未来を選びたいか各々が考え、対話し意思を示すチャンスであり、民主主義のツールだと思います。3.11以降、原発稼働の是非をめぐる、東京都、大阪市、静岡県、去年は宮城県、先日には茨城県で住民投票条例制定の直接請求が行われました。ただ、いずれも議会が否決し投票は行われていません。

気候危機や原発について、声を上げる当事者が、若者をはじめ日本でも増えています。政治は対話の扉を開くでしょうか。まず足元から、コナンの不屈のパワーにあやかりながら、私も住民投票の実現を県域で応援しています。